

令和4年度高崎市総合教育会議 会議録

日 時 令和4年12月22日(木) 午後2時00分から午後2時48分まで

会 場 庁議室

出席者

(市長)

富岡賢治

(教育長)

飯野眞幸

(教育委員)

教育長職務代理者	重田誠	委	員	神宮嘉一
委 員	田野内明美	委	員	塩野有希

(事務局)

教育部長	小見幸雄	学校教育担当部長	山崎幹夫
教育総務課長	小池郁生	文化財保護課長	角田真也
教職員課長	岡田朝夫	学校教育課長	依田哲夫
健康教育課長	長岡誠	教育センター所長	清水さとみ
教育総務課長補佐	宮澤信宏		

<p>教 育 長</p>	<p>令和4年度高崎市総合教育会議を始めさせていただきます。</p> <p>今から17年前に滋賀県大津市の中学2年生がいじめで自殺をしたことについて、教育委員会が何も知らなかったという事実によって、「もう教育委員会などいない」という論議がありました。そのことを受けて、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正になり、総合教育会議を開くことになりました。また、会議を招集するのは、地方公共団体の長、高崎市では市長ということになります。市長と教育委員が自由に意見を交換する会議になりますので、今日は皆さんにお世話になりたいと思います。</p> <p>それでは、最初に富岡市長よりご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
<p>市 長</p>	<p>お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。2つほど私の考えを申し上げます。</p> <p>1点目は、「高崎の子どもは、高崎で守る」という固い決意で、2つの新たな事業を準備しております。1つは高崎市独自の児童相談所を作ろうということです。今まで虐待などを受けた子どもへの対応は、群馬県の西部地域の児童相談所が対応していました。私の目から見ますと対応が緩く、適切な対応をしているという感じがしなかったものですから、これは自分達でしっかりやろうと考えました。今までは県の児童相談所で対応し、少しワンクッション入れたのですが、今度は全部抱えるものですから、もう逃げ道はないということになります。当然、市の虐待を市で対応していくのが正しいと思っています。全国の児童相談所の様子を見ますと、専門家集団で扱うものですから、基本的に緩く、行動力に欠けるといいます。やはり、児童心理・社会福祉・児童福祉・臨床心理などの専門家というのは大学院で育てるものですから、アカデミックな論文を書くのはうまくても、行動力にはやや欠けるとずっと思っていました。児童虐待があったという通告がありましたら、家庭に駆け付けて、児童相談所は無理やりドアを開ける権限もありますので、強行突入をするくらい気合いの入った児童相談所にしていかなければならないと考えています。そういう気合いを持った専門家が沢山いるかということもそうでもないです。1つのポストを募集しますと、30～40人集まるのですが、専門家は多くても少し行動力に欠ける人が多く、採用するには時間がかかっています。しかし、準備はかなり進んでおりまして、生活保護などをずっと長く担当しているガッツのある職員など、そういう人を事前に配置するという事で人事もセットしています。行動する児童相談所、高崎市から虐待で死ぬ子どもはいないようにしたいと思っています。また、施設は相談所の機能の部分と、両親から避難してきて預かって泊まる宿泊所が必要なのですが、市民全体の関心を受ける1番良い場所に置くという考えで、問屋町駅を降りた直ぐのところに児童相談所を設置することにしました。明るいイメージの施設にしようと思っています。多少反対の動きもあったのですが、説得いたしましたらご理解いただけました。行動力のある、行動する児童相談所を作る、そういう予定です。</p> <p>もうひとつは、ヤングケアラーという言葉をご存知かと思いますが、両親の代わりに寝たきり状態の祖父母や母親、そういう方を面倒みている子どもがいます。例えば、学校から帰ってきて、親の面倒や家庭のことをやっていて、勉強時間や友達と遊ぶ時間、携帯電話をいじる時間も無いような、そういう子どもがいるということはよく知られたことで、そういう子どもに対応していかななくては行けないと日本中で言われています。国や県の取り扱い方はおかしいと思っています。なぜかと言うと、ヤングケアラーという定義は何なのかということで、どういう範囲までをヤングケアラーというのかと議論ばかりしています。私からするとナンセンスな時間つなぎだけのやり方だと思います。定義などはしなくても、常識感覚でわかることです。人数などは調査をしなくても抽出で、学校に聞けば1つ</p>

	<p>の学校に1人か2人とわかります。そういう子どもたちに対して手を差し伸べようと共通の思いがあったのですが、実行する国や県、市はありません。高崎市は今年度の9月から実行しています。要するに、そういう子どもたちを皆で相談して何を手伝ってあげようか、介護でしたら毎日介護のところを週に2日代わってあげよう、食事の世話とかお手伝いに行きましょうという仕組みを作りました。どういう対応が良いかワーキングチームを作って検討し、ボランティアの協力を得まして、そこにお手伝いに行くという仕組みを作り上げました。自画自賛で恐縮ですが、日本で唯一の速い対応だと思っています。10件前後の取組を始めたところ、最初は主体が中・高校生だと思っていたのですが、蓋を開けてみますと3分の1が小学生でした。4～6年生が、学校から帰って何もしないで直ぐ掃除、洗濯、調理や介護など、そういうことをやっている子どもが結構多くいることがわかりました。中・高校生だとそういう境遇にある子どもは不満が言えますが、小学生はそういうものだと思い込んでいます。そういう子どもに手を差し伸べることが大事だと思います。「来なくて良い」と言う親もいますので、実行していくのは大変です。家庭の貧困や色々な親がいますので、1つ1つ乗り越えながらやっていくのは大変だと思いますが、教育委員会と福祉部が中心となって相談しながらやっていく、そういう体制をとりました。</p> <p>2点目は、市長になる以前から思っていました、高崎市の子どもは割と保守的で、チャレンジ精神に欠けると思っています。そういう事例を挙げますと、市長になる前に県立女子大学の学長をしていましたが、何か新しいことに取り組むという前に手堅い問題点を言います。こういう場所で行くと警察や商店街がどうかとか、そういうことは我々中高年が考えることで、「若い人達はやりたように動けば良い」と言うのですが、まず問題点から言います。そういう目で見ると、高崎市の若い経営者は行動が保守的です。式典ばかり上手くて、ガッツを持った取組が少ないと思っています。教育の現場でみますと、高崎市は東京から100キロの距離にある活発な地方都市ですが、進学実績が思わしくありません。これはチャレンジしないからです。少し頑張って背伸びをすれば受かるかもしれない大学を受けない、確実に受かるようなところしか受けないという問題があると思います。いわゆる良い大学に行ったから幸せというわけではありませんが、少し背伸びをして行きたい大学に挑戦するというのが欠けていると思います。どうもチャレンジ精神が低い、安定した方へと流れるというところがあって、これをもう少しチャレンジ精神のある子どもたちにしたいとずっと言っています。なかなか抽象的なテーマですから、直ぐどうなるというものではないですが、実に高崎市は保守的です。そういう子どもたちを変えていきたいです。幸い、教育長や教育委員会のおかげで、学力試験などは割合水準が高いです。これは色々なことをやっているのおかげです。最後の「挑戦をする」というところが、少し保守的です。これは高崎市の将来のためにも、何か刺激を与えるような教育がなされないかなと思っています。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございました。</p> <p>市長の思いを改めて私も聞かせていただきました。今日は限られた時間ですので、教育委員のお考えを絞ってお話ししていただいて、そこに市長の感想をいただくという形で進めたいと思います。</p> <p>では、重田委員からお願いいたします。</p>
重田教育長職務代理者	<p>私は、小児科医の立場から学校の感染対策のことを含めてお話しさせていただきます。ここ3年間、コロナで学校教育や色々なことが左右されてしまっていますが、高崎市は、他の県などを見ても学校行事とか感染対策を上手くやっている方ではないかなと思います。本来だと少し感染が落ち着けば、そろそろ出口戦略で感染対策をしながらも普通に戻すという形をしていきたいなというところです。</p>

		<p>が、第7波の後にすぐ第8波がきてしまいました。しかも小児の感染数が多く、普通だったらもう少し早く戻りたいなという感じだったのですが、オミクロン株になってからデルタ株の時とは変わって子どもの感染数が多いのと、子どもはデルタ株の時はほとんど亡くなる心配はありませんでした。8、9月に国立感染症研究所がまとめたデータで子どもでも41人ほど亡くなっています。しかも、そのうち半数は基礎疾患がありません。また、子どものコロナはインフルエンザより軽い事の方が多いのですが、その中で痙攣を起こす子が多く、昔のデルタ株に比べると軽くなっているのですが、違うパターンがあって、なかなか100パーセント良いとは言えません。やはり感染対策をしっかりとやりながら、今後出口戦略を探って、学校行事と感染対策という形を何とかとっていきたいと考えています。この感染症は、単にコロナが終わったら終わりではなくて、地球環境の問題やその他の鳥インフルエンザなども出ていますので、学校でも感染症対策と教育を両立させながら、強い学校にしていけたらと考えています。</p>
市	長	41人というのは全国ですか。
	重田教育長職務代理者	全国です。
市	長	高崎市はまだいないですよ。
	重田教育長職務代理者	高崎はまだいないです。今年の1～8月の段階で、国立感染症研究所がまとめたデータだと41人です。
市	長	それから、ワクチンの接種を親に頼んでも難しいです。反発する親が多いですから。「接種をお願いします」と言ってから、次々手を打っているという感じもしません。入口からもう拒否反応があります。
	重田教育長職務代理者	なかなか難しいですね。
市	長	どうするかという問題です。学校活動で感染したというよりは家庭で、どちらが先かわかりませんが家庭内感染というものです。日本で高崎市しかやっていないのですが、消毒薬を各家庭に配りました。マスクをするのは、学校現場でもやっています。打つ手が無いものだから、どうしたらいいのでしょうか。親御さんに頼んでも難しいです。
	重田教育長職務代理者	ワクチンは4歳以下も始まりました。うちの医療機関でもやっています。今は結構いっぱいです。打ちたいという親御さんもいますが、やはりコロナワクチンが怖いという人もいて、その後が続かないようです。
市	長	ワクチンを絶対打つという人と、絶対反対する人といいます。打ってはいかがでしようと言うのですが反応がないです。学校が説得するのは無理ですので、どう手を打っていいかわからないです。
	重田教育長職務代理者	一応、小児科学会や医師会でも広報をするなどやっていますが、なかなか難しく、SNSで「ワクチンは怖い」「ワクチンはだめ」などがあると、ご両親が接種してはダメと思うようです。全体的に感染者数が増えてくると、ワクチンを接種する人が増えてくるようではありますが。
市	長	隣近所が陽性になったからといって、大騒ぎではなくなりましたからね。

重田教育長職務代理者	圧倒的に若い人に関しては、症状が軽い人が多いです。全国の状況を見て重症者数は多くないのですが、問題なのは死者数が200人と増えていることです。今の重症度というのは、呼吸障害が重症にならないと重症にならないです。肺は大丈夫でも糖尿病であるとか、腎臓が悪いとか、合併症がある高齢者が亡くなっています。重症者数の割には死亡者が多いです。ある程度増えてしまうと、80代以上はかなり危ないという感じです。
市 長	テレビなどを見ると「危険だ、危険だ」と数のことばかり言っていて、そんなことは誰にでもわかります。テレビでもっともらしい顔して言っている方が多いのですが、何をしようということについては何も発言していません。
重田教育長職務代理者	ある程度若い人の行動制限は外してもいいと思いますが、要は70、80歳の人達で合併症のある人はしっかり守って、それ以外の人達はワクチンを接種するとか、そういう形で社会生活を戻すのが良いと思うのですが、なかなかそれが難しいです。多くの人は、だんだん株が軽くなってきていますので、インフルエンザ並みも多いのですが、やはりインフルエンザと比べると死亡者は多いです。悪くなってしまう人もいるので、その部分を何とか守れば大丈夫かなと思うのですが難しいです。
市 長	東京や大阪は賑やかで、テレビに出ていかにも何かやっついそうで、何もやっっていないです。高崎市はやるならやるという街ですから、やろうと思っているのですが何からやれば良いか。こういうことをやっているという市を聞きません。何をして良いかさっぱりわかりません。
重田教育長職務代理者	私の親戚が神奈川県にいまして、神奈川県は神奈川モデルといていたのですが、実際に感染するとすぐにPCR検査もしてもらえませんが、かかりつけの医院で診てもらえませんが、高崎市だったら普通の医院でも検査して診てくれるのですが、神奈川県ではセンターに行かないと検査もできません。
市 長	そうですね。
重田教育長職務代理者	早く見つけて、早くピックアップして、悪い人を選別することができれば、それほど怖がらなくて良いです。
市 長	そういう意味では医師会の皆さんも協力的ですし、病院も協力的です。
教 育 長	重田委員が言ってくれましたが、高崎市はよくやってくれているという話の中で、上毛新聞が12月1日付けの学校の学級閉鎖の数をいくつか出したのですが、その中でも高崎市は圧倒的に少ないです。市長が職員に消毒薬を家に届けるという、そういうことをしてくれたのは気持ちが伝わると思います。
市 長	学級閉鎖は少ないですか。結構多いと思いました。
教 育 長	12月1日で4校4学級です。前橋などは2桁です。そういうのも表れているのかなと思います。
市 長	オミクロン株になってから、人口に比例して止まらなくなっていました。
教 育 長	ありがとうございました。 次に神宮委員からお願いします。

神 宮 委 員	冒頭で市長がヤングケアラーについてのお話をいただきましたが、ヤングケアラーという言葉が教育委員になるまで知らない言葉でしたし、その実態というのも考えたこともありませんでした。今まで子育てや学校関係、PTAの活動を通して関わっていたつもりなのですが、そういう家庭の中での出来事にまで思いが及んだことが全くありませんでした。そういう中で、こういった現実がだんだんわかるようになってきて、そういう人達に手を差し伸べていただくのはすごいことだと本当に感謝します。今回、ヤングケアラーのサポートをするということで、具体的にサポーターを通じて、色々な家庭の家事だとか、負担を軽減してやるということの、まず1番大変なところを取り除いてやるという重要性と、一緒になって心のケアも併せてできるようになってくるとより効果が出るのかなと感じました。今後、新しく開設する児童相談所とあわせて、是非、各機関と連携して子どもの健全な育成、普通のことが普通にできるといった環境づくりに高崎市が率先してやっていただけることを願っています。「高崎の子どもは、高崎で守る」というのを実践する、まさにそうした事業だと思いますので、強力で推進していただきたいと感じています。
市 長	心のケアまでは考えていませんでした。手がまわっていないのですが、そういう段階になると思います。だいたい母親が病気で寝たきりになっているか、それから少し貧困だとか、そういう家庭です。母子家庭で非常に苦しい家庭にある、そこまで手がまわらない父子家庭もありました。母子家庭が皆そうかといえばそうではないのですが、そういう家庭にはそういう対応、こういう家庭にはこういう対応と、個別にやっぺいこうと思います。単純にしないで、対応の仕方をその都度、1人の子どものために1つのワーキングチームを作って対応策を考えるとという手間暇はかかるのですが、40数件受けてどういった状況ですか。
学 校 教 育 課 長	今、調査をしております、その後ワーキングチームでやっていくという繋ぎの状態です。
市 長	どういう状況にあるかの調査ですか。
学 校 教 育 課 長	家庭を調査していくための手立て、それを色々な対応を考えながらやっていきます。家庭に入っても「ノー」と言われてしまったら、入りづらくなっていますので。
市 長	隣近所の様子だとか、そういうことですね。
学 校 教 育 課 長	そういうことです。
市 長	それは少し急がないといけません。きりがありません。本当のことを言うかわからないのですから。
教 育 長	市長が充分準備をして、9月からスタートしようと言ってくれまして、蓋を開けてみてどのくらいの反応があるかなと思ったのですが、広報の作り方も大変良かったと思います。それを契機に問い合わせが増えてきました。虐待というものなんとなくわかりやすいのですが、ヤングケアラーという横文字が付いていることによって認知度も上がり、かなり問い合わせが増えたと感じています。
神 宮 委 員	SOSを言える、言いやすさというのでしょうか、そこが結構大きいようです。

教 育 長	<p>市長がよくネーミングをしてくれるのですが、「何々SOSサービス」という、それがすごいと思っています。ネーミングが活着ている感じがします。市長が言っていたように、今、小学生で3件くらいあるのですが、もし手が挙げれば考えますよというふうになっていたのが、今、小学生で手を差し伸べてほしいという、そういう話になっています。これは大きいと思います。高校生など、自分から問い合わせをしてくるという例もありました。</p>
市 長	<p>虐待というのは、隣の家で虐待がありそうだと密告するのではなく、伝える国民の義務があります。これも20～30年もかかって、やっと密告するのではなく、大事なことなのだとということが国民に広く知れてきたのは最近です。それまでは知っていても電話をするとこちらに影響がくるとってしまう。人の家のことを密告するというのは、精神的に優れないものですから。正々堂々と密告していただけるのに30年かかりました。児童福祉法は、もう40年くらいありますがやっとなです。</p>
教 育 長	<p>国民の努力義務になりましたから、それは大きいです。</p>
市 長	<p>学校の先生も「自分のところから恥を出すのは嫌だ」という感覚もなくなってきて、通告をちゃんとしてくれるようになりました。</p>
教 育 長	<p>実際に効果が認められているのだと思います。やはり、効果が出てこなければ、手が挙がってこないと思います。効果として認知されてきたのかなと感じます。</p>
市 長	<p>週2回、各2時間で、基本的にはたいしたことないのですが、子どもが毎日料理をしているところに「お手伝いするよ」と手伝いに行って、一緒に作ってご飯を食べて喜ぶなんて、涙なしには語れない話です。良かったと思います。幸い、高崎市はボランティアをバックのように持っている法人がありまして、協力してもらえます。私は、日本の悪いところはボランティアを無料だと思っているところです。これは良くないです。ちゃんとお金を払いましょうと。それで食べていけるほどではないですが、もっと処遇を良くしていこうと思っています。</p>
神 宮 委 員	<p>よろしくお願いします。</p>
教 育 長	<p>では、次に田野内委員お願いします。</p>
田 野 内 委 員	<p>私は職場が駅の近くののですが、駅の構内に飾られている上野三碑のレプリカを見てみると、じっくりその碑を読んでいる方や写真に収めている方を見かけます。高崎市には魅力的な資産が沢山ある中で、特に上野三碑は魅力的なものと思っています。今年は「世界の記憶」に登録されて5周年ということで、それを記念して多胡碑記念館で企画展が行われ、三碑の覆屋の扉を開く特別展示なども行われています。ここでも多くの皆さんがお出かけになったと伺っています。今までも注目が集まっていますが、5周年と打ち出したことで、より多くの皆さんが訪れたのかなと思いました。また、上野三碑かるた大会が行われまして、これも1つ大きなことだったと思います。コロナ禍の中で、密を避けてというのは大変ですが、今回もそういったところをケアしながら開催できたというのがとても良かったと思います。今回順位はつけなかったのですが、参加したというところに喜びを感じていたようなので、これをきっかけに今後も続けていければ良いなと思います。年代が上がったら、その上がった人たちがさらに協力して、皆で盛り上がっていったら良いなと感じます。県外の方に、三碑もそうなのですが、古墳とか博物館とかをご案内するとすごく喜んでくださいます。専門の解説員や学芸</p>

	<p>員の方、それからボランティアの皆さんのお話を伺うとすごく喜ばれます。「とても勉強になった」「高崎ってすごい」というふうにして、東京へ帰られます。こういう意見を直接聞くとすごく嬉しく思います。他にも沢山の遺産・文化財がありますので、そういったものを魅力の1つとして、どんどん発信していきたいと思っています。</p>
市長	<p>小学校の遠足で、上野三碑に連れて行ったりしているのですか。</p>
文化財保護課長	<p>よくお越しいただいています。</p>
市長	<p>全校のカリキュラムでやっているのですか。</p>
文化財保護課長	<p>例えば、近くの古墳に来てくださることもありますし、上野三碑をご利用いただくこともあるのですが、小学校では遺跡の見学にも訪れていただいています。</p>
市長	<p>何年生くらいですか。</p>
文化財保護課長	<p>多いのは4年生くらいです。</p>
教育長	<p>そういう意識は子どもたちに植いついていると思います。</p>
市長	<p>お土産屋が並ぶような史跡ではないですから、静かな散歩をする中高年の方向への整備をすれば良いと考えています。「上野三碑が世界の記憶になって、沢山お客さんが来て良いですね」と随分言われましたが、そうした人数を望む必要はないという考えで、静かな道にしようと思っています。そういう方向なのですが、勉強はしていただきたいと思っています。上野三碑かるたはどこかでちゃんとやっているのですか。</p>
文化財保護課長	<p>はい。学校でかるたを取り上げていただいています。学級文庫にも入れていただきまして、学級で取り組んだり、校内で大会を行っていただいたり、我々が呼ばれることもあるのですが、ほとんど自主的に各学校でやっていただいています。今回は、大会のチラシも全児童・生徒に配布していただきまして、コロナもありましたので、大規模な大会を何日もやるというふうにはならなかったのですが、非常に反応が良く、学校で協力してやっていただいたおかげと思っています。</p>
市長	<p>ずっと押し押しでやった方が良いです。</p>
教育長	<p>これから我々も一生懸命やりますので、後押しをお願いします。</p>
田野内委員	<p>私も沢山宣伝したいと思います。</p>
教育長	<p>それでは塩野委員、最後をお願いします。</p>
塩野委員	<p>私からは学力アップの件について、地域の協力を得た学習会の実施ということで、少しお話しさせていただければと思います。私自身も、子どもの通っている学校で「さくらベンチャー」と言って、放課後に3～4年生を対象とした算数の授業を教える活動がありまして、私もボランティアで参加させていただいています。去年はコロナの警戒度が上がった時に、一旦中止になってしまったのですが、完全に中止になることはなく、ここまで継続しているということが、素晴らしいと思います。地域のボランティアの方もそうですし、子どもたちの学びたいとい</p>

	<p>う気持ちですとか、学校の先生の子どもたちに学びの場を提供しようという熱い思いが集まって、継続しているのだなと思いました。また、学校に聞いたところ、子どもの半数くらいが自主的に参加したいと言うそうです。やはり、親からみても、放課後に家に帰ってゲームやテレビではなく、学校に残ってさらに基礎的なものを反復し、基本的な学力を強めていこうというのは、学校でやっていただけることもあり、安全で安心します。また、学童保育というのが足りていない学校があるかと思います。小学校低学年は、学童の保育というのが必要ですが、中・高学年になってくれば、保育というよりは、その時間を基礎学力のアップに、地域の方々のお力を借りながら学力が高められるというのが、本当に一石二鳥、三鳥なのかなと思っています。子どもたちもやらなくてはならないことが増えてきているので、時間に限りがあるとは思いますが、こういう機会がずっと続けば良いなと思っています。全国学力テストでも、高崎市が上位というのは、その成果が如実に表れているのではないかと考えております。</p>
<p>市 長</p>	<p>娘が小学校の時に勉強をみたことがあります。私たちに解けない問題がありました。解けないとそこで止まってしまう、先へ進めないと嫌になってしまいます。家庭教師を頼めばとてもお金がかかります。そんな時に、ボランティアの方が体制を整えてくれると良いのではないかと考えました。今は高学歴の親が多く、「先生より自分の方が教えるのが上手い」と思っている人は沢山います。そういう人達が参加してくれたらどうかというので考えたのですが、これは日本では高崎だけです。他の市町村は、1年に1回授業に参加しましょうとか、勉強をみましましょうとか、催し物をやっているところはあります。1、2日ではなく、ずっとやっているところはないです。それは良かったと思います。塩野委員の話で気になったのは、私が県立女子大学の学長をしている時に、学童保育の場を生かして、英語学習をやる、英会話をやったらプラスではないかと言い出した人がいまして、「賛成ですか」と聞きましたら、賛成・反対が半分ずつくらいでした。これをすると学童保育にプレッシャーがかかり、少し気が進まないところがありました。預かり保育は預かり保育で、やりたい子だけやらせれば良いと言いますが、同じ建物の隣で勉強していたら、子どもは引きずられてしまいますから、そこが難しいです。勉強させるのは悪い話ではありませんが、住民の中で反対が半分いました。悩ましいところです。また、高崎は学童保育の希望数は必ず作ります。ただし、良い建物の1階などに設置してほしいといった要請が強いです。私からすると、空き家対策にもなるので、古い空き家を使ってくださいと。しかし、絶対に「うん」と言いません。トイレがきれいでないといけないといった意見もあり、だいたいの希望は聞きますが、空き家を使えるようにしたいと思っています。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>そろそろお時間になりましたので、以上で、令和4年度高崎市総合教育会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。</p>